

「知事とのフレッシュトーク」（平成21年10月22日実施）の概要について

「知事とのフレッシュトーク」は、知事が高校生の皆さんと県の未来について意見交換を行うものです。

平成21年10月22日（木）に十和田市の県立十和田西高等学校において実施した、「知事とのフレッシュトーク」の概要をお知らせします。

十和田西高等学校の概要

昭和29年に、「青森県立三本木農業高等学校十和田分校農業科定時制」として設置。昭和55年に「青森県立三本木高等学校十和田分校」（全日制、普通科）となり、平成元年に「青森県立十和田西高等学校」として独立開校。平成10年に県内初の「観光科」がスタート。

現在、普通科と観光科の2学科で、207名の生徒が学んでいます。

知事（始めのあいさつ）



おはようございます。

我々のこの大切な十和田湖、奥入瀬溪流、八甲田山、もみじが本当にきれいです。今日は、青森から田代を通ってきました。私たちの十和田、奥入瀬をみんなと一緒にもっと大切にし、そして、もっともっと多くの人たちに来てもらえる、そんなところになりたいな、そういうことを考えながら、今日は来ました。

私は、生まれが百石でいつも同じ奥入瀬川の水を飲んで育ちました。高校まで地元に来て、その後県外に出て、こうして帰ってきています。

常に、県政の場面で思っていることは、次の時代、要するに皆さんたちが、この青森県でより良く生きられる仕組みをちゃんと整えたい。働く場もそうだし、保健、医療、福祉などの社会保障、つまり、暮らしを守って、命を守って、そういう仕事を地道でもしっかりと進めたいということです。

今日は、6人との意見交換ということで気合いが入っております。皆さんが思う存分活躍できる、そういった青森県を作りたい、そのためには、今の高校生は何を考えているのか、何を悩んでいるのか、ふるさとの未来にどういうことを期待しているのか、そういうことを率直に聞けたらうれしく思います。

発言者 1（3年 女子）

私は青森県の観光について提言したいと思います。

平成22年12月に新幹線が青森市まで開通予定です。今まで八戸駅だけであった新幹線駅が七戸、青森と増えることで、県内の観光地への利便性が向上し、観光客が増えると思います。そこで、これからの青森県の観光において、各観光地が連携して観光を発信するというのはどうでしょうか。今まで各観光地ごとに活動していた誘致を各観光地が連携して行うことで、観光が点から線へと発展します。そのためには、共通のイベントや、共通のサービスを行うなど連携をとって進めたら、ますます発展すると思います。

もう1点提言します。十和田西高校は、普通科と観光科の学年2クラスの学校ですが、全員が1年の時に、観光地や観光資源について学び、文化観光ガイドの認定を受けます。2年の時には、秋に奥入瀬溪流の文化観光ガイドを実施します。昨年2年生のとき、10月18日、19日の2日間のマイカー通行規制中に、全国から来た観光客にすばらしい溪流を紹介しましたが、奥入瀬は車で通過するより歩いたほうが絶対いいと思います。

マイカーを規制して、奥入瀬溪流を歩かせるために、ぜひとも必要なのはバイパスです。

溪流にバイパスができれば、騒音や排気ガスのない、本来の美しい奥入瀬溪流を全国の人に体験させることができます。私は青森県の観光は、単に景色を見るだけの観光ではなく、体験を重視した観光に力を入れるべきだと考えますが、県知事はいかがでしょうか。

知事

まず観光の連携ということですが、十和田湖だけとか、十和田市の観光協会だけとか「点」ではなく、県内全体が連携することが大事です。来年の12月に新幹線が全線開通し、すごく早く行き来ができるようになります。

今年も「太宰生誕100周年記念」ということで、それだけでもすごく多くの方が青森に来てくれていましたけれども、新幹線全線開業後の平成23年には、JR6社とデスティネーションキャンペーンというんだけれども、青森の観光のこともだけを4月23日から7月22日、桜の咲くころからねぶた祭りの寸前まで大キャンペーンをやります。そうしたら、やっぱりたくさんのお客様が来てくれると思っています。

そのお客様に対し、十分に青森県の魅力をアピールできるように、物産などいろいろな分野に分かれていた観光関係の組織を統合し、新たな組織である青森県観光連盟が発足しました。それとともに、県内の様々な観光協会とか、観光をPRする団体とか、一緒にいろいろな仕事ができるように取り組んでいます。

やはり、個々に活動するよりも、一緒に青森を情報発信していく。その時に、来るお客様は、来たときに十和田湖だけではなくて、せっかく来たんだから、十和田湖を通して、黒石のほうに行って、弘前も見たい。夕日がきれいな西海岸の温泉のある五能線に乗ってみたいなど、いろいろなことを考えます。ですから、しっかりと連携できる仕組みをスタートし、それが、今、具体的に始まってきています。

後は、アプティネットを知っていますか。さっきコンピューター教室を見てきたけれども、アプティネットという青森県HPの観光ネットに、実習などで一度つないでみていただければありがたいんですけども、すごく県内情報が集まっています。現在、80万件

の観光情報を掲載していますが、情報の上でも、アプリネットなどを通じて一体化しています。

このように、観光の仕組みも連携し、一体化するようになっていきます。

また、観光キャンペーンについても同様に取り組んでいます。例えば今年の7月に、都内のホテルにおいて、首都圏域の観光業者の方々に集まってもらい、スライドを使って、こういうおいしい食べ物があって、温泉も良いなど青森県の宣伝を行い、そこに県内の各地域の人も出向き、一堂に会した商談会を行いました。このように、青森県として統一して観光キャンペーンを行っています。これからも集中して、みんなで力を合わせて観光開発を頑張っていきたいと思っています。

そして、今の時期に高校生の皆さんから奥入瀬渓流についての提言が出たのはうれしいことです。

私たちの奥入瀬渓流ですが、皆さんは地元だからよく知っていると思うけれども、この時期とか、新緑もそうだけれども、土日になるとすごいです。バスが来るわ、地元の人も来るわ、県外ナンバーも来るわ。少し停車したりするものだから、車は動けなくなったりします。そのため、排気ガスが出たり環境問題が生じています。

我々の渓流だけは、車も近くを走れる、遊歩道も人が歩けるという形で、本当にいろいろな方たちが来てくれています。観光開発、そういう意味ではいいんだけど、この渓流が守れなくなったら、木が枯れるとか、崩れるとかになったら、逆に観光の価値がなくなってしまうんです。



そのため、私は国会議員のときから、地元のみならずは知っていると思うけれども奥入瀬渓流を迂回するバイパス、「青ぶな山バイパス」が必要だと言ってきました。

これができると、将来的には、歩いて楽しむ奥入瀬渓流ということで、障害のある人などは電気自動車を利用したり、青森県では電気自動車を8台入れて先進的な実験をしています。環境に配慮した観光ができることになります。でも、そのためには、この青ぶな山にトンネルを1本作っておかないといけないということです。

このトンネルのことについては、国土交通省、環境省の役所の人、みんなでこれをやらないと奥入瀬渓流は守れないんだということで、勉強会というのを作っています。勉強会が始まった上に、ルート選定、どこを抜いたら水資源、滝に一番影響を与えないルートであるかなど、ルートもほぼ決まっています。予算を獲得して工事が完成すれば、車を止めて、本格的に環境と観光と交通が共生する新しい仕組みができます。そういう形でこそ、未来に奥入瀬渓流を守ってつなげていけます。

ただ、予算獲得が難しい。今、道路、公共事業は大幅に減らすということになっています。これは確かに道路だけれども、道路というよりも、環境と観光を守るための新しい仕組みなんだから、この工事は必要ですし、これは国が直轄でやるべき工事ですから、そういうことでアピールしていきたいと思っています。皆さん、是非応援してください。

発言者 2（3 年 男子）

私は野球部に所属し、部活動と勉強とを両立させるために頑張ってきました。

また、地域では伝統芸能である沢田鶏舞の継承に努めています。今日までの人生で多くの人との出会いがあり、たくさんのことを学びましたが、特に部活動の先生からは強く生きること、辛抱強く耐えること、常に目標を持って進むことなど、多くのことを学びました。私は大学へ行って、教員の資格を取り、将来、この先生のような意欲を引き出す教師になりたいと考えています。

将来、教師を目指すに当たって懸念していることは、少子化の問題です。県では、「わくわくあおもり子育てプラン」を実施していますが、平成 20 年度の報告書を見る限り、出生数、合計特殊出生率が下がっていて、成果があまり上がっていないように思われます。今年度で前期計画が終了しました。知事は、前期計画を受けて、これからどのようにしていくお考えですか。これを踏まえた知事の未来像はどのようなものですか。

知事

ありがとうございます。鋭い質問をされました。

我々、青森県にとって子たちは本当に宝であり、いっぱい増えることを期待しています。今、青森県というか、日本全体の中で大きな課題は、少子化、子供の数が減っていることと高齢化です。高齢化は、元気で長生きするんだから悪いことでなく、対応策、社会保障をきちんとしていけばいいわけですが、少子化ということになっていくと、労働力、働く人も減ってしまって、国全体として物を作ったり、生産して経済を回す仕組みというか、経済が回ることによって、給料になったり、収入になったり、それが回らなくなってマイナススパイラルに行くんじゃないかということが心配されます。

確かに、青森県の状況を考えてみると、20 年には少し回復したけれども、全国平均より、いわゆる出生率が低いという現状があります。出生数そのものも 20 年は 25 人増えたということはあるんだけど、低い状況にあることを大変心配しています。

このことについて、現場を歩いて地域の健康づくりをしている現場の保健師さんたちと、話をすると、心配としては、少子高齢化もあるし、子供の虐待もあるし、例えば自殺の問題もあるが、青森の最大の問題は、働く場をどうやって増やしていくかであると言われます。もちろん、子育て支援ということで何か補助するとか、何か手当を出すとか、そういうものもすごくいいかもしれないけれども、一番何よりも働くところ、雇用の方が確保できたら、若い人が県内に残ってくれる率も増えると思うし、また、自殺してしまいたいという人も減らせるし、だから、とにかく働く場づくりを知事は頑張ってくださいと言われました。

本当にそれは、真っすぐ受けとめました。

だから、企業誘致とか、そういうことをしています。来週から、大阪とか、名古屋とか、東京とかで、青森県の企業立地のフェア、要するに青森に来てくれませんか、青森で一緒に仕事をしませんかというフェアがあって、いろいろな企業を回ったり、あるいは、いろいろな企業の方々に来てもらって、青森県はいいところ、みんな一生懸命働きますとアピ

ールしています。

ある工場においては、製品の欠陥率が非常に低いというか、世界一少ないということから、1,000人規模の工場を増設してくれました。これは、すごくうれしかったです。

そういうことで来週の1週間、ずっと業界を回ってきます。6年間に155社、企業誘致をしたり、増設するというか、増やしたりということをしてきました。それでもまだまだ足りないと自分でも思っています。

また、青森県の高校生の場合、私もそうだけれども、何かテレビとかを見ていると、都会に行ってみよう、行ってみたいと思っていたりします。だから、行ってみたいと思っ行って後に帰ってこれるような仕組みなど、そういうことを通じて、若い年代の人たちが可能な限り青森にまた戻ってきてくれるような、そういう仕組みづくりもすごく重要だと思っています。

発言者3（3年 女子）

私は青森県が大好きで、県内に就職したいと考えています。

ところで、今年は特に就職難で、就職活動をしている多くの高校生が苦しんでいます。

先日、私も就職試験に落ちてしまい、就職先を探すことに大変苦労しています。青森県は有効求人倍率が全国ワースト2位で大変低いので、県内に就職を希望している多くの人職につけません。この大変苦しい状況を変えるために、県はどのような対策をとっているのでしょうか。

知事

去年までは県も、それから、地元企業の人たちも本当に頑張ってくれて、高校生の求人倍率ということに限って言えば、例えば去年は1.34とか、一昨年は1.36とか、その前の年は1.39とか、要するに人が足りない状況でした。

去年の秋のリーマンショック以来、ばたりと求人が減ってきました。現在、経済全体は、良くないものの、大きい企業は大分改善してきたと聞いています。しかし、一番重要な地元企業については、経済的に様々な不安要素があり、採用を控えたりしています。我々も毎年ローラー作戦といって、企業を回って、「何人か採用してくれないですか、青森の子供たちはすごくいいですよ」と話をしています。

高校生は、せつかくの人財であり、企業は団塊の世代の大量退職もあります。企業としては、本当は、卒を埋めなきゃいけないけれども、国の抱える借金や公共事業の減少など、特に地方企業、中小企業、小さい会社にとってみれば、すごく先行きの経済に不安がある状況です。

そのため、県としては、できる限りの補正予算、経済対策を去年から打ち続けていますが、国の予算に連動しているところもあり、その執行が難しい状況となっていて、国には、早く新たな経済対策を打ち出してほしいということを強く要求しています。このような対策は、スピードも大事で、雇用対策のメニューを決めるのに時間がかかり、県としては困っている状況です。

今年は、本当に厳しい状況であることを申し訳なく思います。

先程も話をしましたが、これまで、知事として企業誘致とかやってきました。これは、雇用の場の確保が非常に大事であるという思いからです。

その意味でも、来年の新幹線全線開業は、ものすごくチャンスです。

そこで発生してくる観光関連、あるいは食品の加工製造とか、お土産等の需要も増えます。そういう需要を取り込みつつ、どうやって新幹線をてこに企業を誘致するか、あるいは県内で観光産業をさらに元気にしていくかだと思っています。

今、第一次産業が、青森の優位分野だけれども、ただリンゴを作るとかナガイモを作るということではなく、それを加工してどのように付加価値を付けるのか、例えば、薬効について研究開発し、ナガイモを粉末にして売るなど、新しい産業ということも打ち出していこうと思っています。

とにかく、みんなで仕事づくりをしていくということです。

十和田の農家の女性たち、元気です。自分たちで加工品、漬物を作ったりして、道の駅で売ったりしています。企業誘致だけじゃなくて、仕事を始める人、商売を持つ人、そういう人たちを作っていくようなことをしっかり進めていきたいと思っています。

また、青森県は、新しく仕事を始める人たちのベンチャービジネスについて、ベンチャーファンドという形で支援しています。

それから、28億円の農商工連携ファンドを打ち出しました。28億円の農商工連携ファンドというのは、例えば今まではリンゴだけ作っていた人が、それをスイーツにしてみようとか、リンゴでやせる薬を作ってみようとか、ということのを思いついた場合に、それを具体化するための基金で、計画に必要なお金を貸付等して、そのお金で商売を興す仕組みです。

更に、トップセールスということで、青森県の知事として青森の物をどんどん売りに行っています。これが売れると外からお金が入ってきて経済が回ります。

このように、経済を何とか回して、経済が回ると、働く場ができてきます。これからもしっかり考え、しっかり取り組んで行きます。

また、雇用ローラー作戦もしっかりやりますので、何とかまたチャレンジしてください。

発言者4（2年 男子）

私は、現在陸上競技をしていて、スポーツが大好きです。将来は、青森県代表として国民体育大会に出場したいと考えて、部活動を頑張っています。

青森県は卓球や相撲、そしてレスリングなど、多くの競技が全国大会や世界大会で優秀な成績を残していますが、県を代表して活躍する選手を育てることと、県民みんながいろいろなスポーツに取り組むことの両方が大切だと思っています。スポーツは県民の健康な体づくりのために、そして心のつながりを集めるために大変有効であると思います。

私は、県民みんながスポーツをするためのお手伝いをするを将来の仕事にしたいと考えています。子供からお年寄りまで県民みんながスポーツに取り組むために県はどのようなことをしていますか。

知事

今、話が合ったとおり、1人1スポーツをやってくれて、健康になってほしいです。青森県は、今、財政でも困っているけれども、一番困っているのは肥満、糖尿です。人のこと言えないけど、すごく困っています。



小中学生の体格が、日本で一番いいんだけど、肥満率が高くなっています。

それが進んでいくと糖尿病という病気になって、糖尿病になると、いろいろなその他の病気を併発して、早く亡くなってしまうということもあります。青森県の短命の原因は「がん」だと思っているわけですが、そこで、がん対策のため、東京のがんセンターの先生に来てもらったのですが、その先生が、がん予防には、糖尿病対策しなければいけないということで、今、対策が始まりました。

そういう意味においても、1人1スポーツ、みんな体を動かしたほうがいいです。

私も、自転車に乗って鍛えています。1人1スポーツ大事だと思っています。

また、スポーツ・レクリエーション祭とか、みんなでスポーツを楽しもうという催し物をやったり、スポーツクラブという形でサッカー等をやっている人たちを支援するとか、そういうこと等を始めています。

スポーツ健康課職員

スポーツをすることでとても健康になる、そして友達もできる、生きがいにもなるということで、知事の話にあったように、県民の多くの人にスポーツを楽しんでもらいたいと考えています。

例えば、スポーツといっても、国体でやる、そういった種目だけではなくて、だれでもできる種目があります。ダンスとか、太極拳とか、ゴルフとか、こういうのは、スポーツ・レクリエーションといいます。そういうスポーツ・レクリエーション祭というのを県では、毎年開催しております。今年は7月に開催しまして、県民が7,500名も参加しました。おもしろいものでは熱気球、風船を膨らませて空を飛ぶ大会をやりまして、たくさんの方が来てくれました。

あと、皆さんは学校にいますので、体育の授業とか部活で体を動かす機会があると思います。ところが、学校を卒業すると、なかなかスポーツをする場所がない、あるいは仲間がいない、あるいはそういう大会もないといったことがあります。そのため、地域で気軽にスポーツに親しめるようなクラブを作りたいといった取組を行っています。現在、県内に準備チームも含めて、25クラブを作っています。

また、競技スポーツ、国体やオリンピックで活躍する選手も育てたいということで、1つ紹介しますと、青森市内に青森県スポーツ科学センターというのがあります。例えば、スポーツ選手が自分は強くなりたいんだけど、どこが足りないんだろうかといったときに、科学的に解明します。それが筋力であるとか、あるいは貧血があるとか、あるいは心の問題とか、けがだとか、専門の方が診断して、そのための対策を練ってくれたりして

います。

そういったことで、いろいろなことをしていますが、とにかくスポーツに親しんでほしいということです。

発言者 5（2 年 女子）

先日、鳩山総理大臣が国連で二酸化炭素排出量25%削減を発表し、多くの国から称賛を浴びました。今、エコや二酸化炭素削減のような環境問題が大きな関心を集めています。青森県は、世界自然遺産である白神山地や、国立公園十和田湖があり、美しい自然は私たちが次の子孫まで守っていかなければならない県民の大切な財産であると思います。

美しい自然を守ること、環境に優しい生活をする事等、環境問題は多くのことがあります。県の取り組んでいる施策には、どのようなことがありますか。私たち県民は、大きなことはできないのですが、毎日の生活の中でごみはできるだけ出さない、出すごみはきちんと分別する、エコバッグを持ち歩くなど、小さなことから行動していくことが大切だと考えています。

知事

環境と言えば青森とよく言われます。きれいな奥入瀬、十和田湖、白神など数えればきりがありますが、このきれいな青森の環境というものを守るための努力を当然していかねばいけません。

それで、今言ってくれたことは、とてもいいことで、皆さんにお願いしたいことがあります。それは、ごみの分別です。これだけでもすごく助かります。

また、県では、リユース、リデュース、リサイクルという3R運動を進めています。要するに、さっき話してくれた、エコバッグ、これを持ってくれるだけでもすごく助かります。まずできることから始めることです。

それと、細かいけど、主電源をまめに落とすとか、そういう本当に地道なことでいいからやってくればいいと思います。寒いときにはシャツを中に1枚多く着るとか、肌着を増やすとか、夏は暑かったら1枚減らしてという感じで、すごく自然体で協力できることなので、取組をお願いしたいと思います。

県としては、そういう形で「もったいない青森県民運動」ということを推進しています。

あと、さっきもお話ししましたが、電気自動車とか、プラグインハイブリッド車とか、要するにガソリン、CO₂を出す石油製品を使わない仕組みというものを、国内全体に広げていくための先進的な実証実験を青森県でやっています。

また、これは環境を守ることに繋がりますが、山の木をきちんと間伐するとか、そういうことをすることによって、すごくCO₂の吸収がよくなって、地球全体が守られます。これによって、海の藻とか、海中生物もすごく炭酸ガスを吸いますから、コンブとかが再生します。要するに、新しい形の漁場が醸成されます。漁場を作るといって、何か産業みたいと思う人もいるけれども、魚を育てるとともに、ものすごくCO₂を削減したりすることが出来ます。

実は、民生用、家庭用の電気のエネルギーの消費がすごく増えていて、これが最大の問

題です。八戸の工業地帯などは、煙が出ているとみんな思っているかもしれないけれども、ものすごくCO₂を減らすとか、そういう取組をしています。

だからこそ、家庭それぞれが、これから省エネとか、CO₂を減らすことができるか、普通に暮らしている我々が問われています。日本の企業は、やれる限りの省エネ投資を具体的に進めていて、問題は各家庭がどこまでやれるかということになります。

それで、皆さん方に環境を守るために分別しようとか、リサイクルもったいない運動をしようとか、そういう働きかけをしているという実態を理解してください。

みんなでCO₂対策をしないと、温度が2度とか上がったらもう大変ですので、それぞれ家庭が努力してくれればと思います。青森県では、1人当たりのごみの排出量はすごく多い。悪いほうから、4番目です。ということは、つまりものすごくごみを出している。皆さん1人1人も余分なごみを出すようなことをしないということを心がけてください。

また、リサイクル率は全国で下から2番目というぐらい低いです。皆さんは、コンビニに行っても、スーパーに行っても、自分で袋を持っていくだけでもいいですから協力してください。県では、1人1人の意識の改革が必要だということで、環境問題を子供たちに理解してもらおう環境対策も行っています。

発言者6（3年 男子）

県政とかの質問には全く関係ないんですが、知事は大会等などで、元気がよくて、おもしろいあいさつをしてくれるんですが、どうやったら知事のようなあいさつができますか。僕に伝授してください。

知事

生まれつきかも知れませんが、良く話すようになったのは、突然、ある日、しゃべってもいいんだと。そう思った途端に止まらなくなったという感じです。

でも、やはり、勉強したからだと思います。勉強したというのは、学校の勉強だけではなくて、本を読んだりとか、それこそゲームもやっているし、映画も見るけれども、今はDVDも見るし、音楽だってよく聞くし、結構いろいろなことを勉強していますし、そこが大事だと思います。

たくさん本を読むと、いろいろなことを話したくなるし、本におもしろいことが書いてたりすると、いろいろな人と会って、話をしたくなります。また、話をすることによって、どんどんネタとか、おもしろい話を聞き出すということもあり、自分の知らないことや、経験談や情報というものが得られます。

たくさん本を読む、たくさん人と会う、人と話す。そうして、自分と会ってくれて、自分を楽しくしてくれたという幸せな気持ちで、話をしたら、人は明るく感じてくれるから、楽しく思ってくれます。これは、すごく大事なことです。

あと、何にでも「悪い」と指摘するのはどうかと思います。たまには必要だけれども、そればかりやっている人に会うとすごく暗い気持ちになります。そういうことでなく、物事を考えて、常に明るい発想、前向きな発想を持つことが大事です。

知事所感

今日は、皆さんと思い切り討論というか、県の考えていること、そして、みんなの働く場のこととか、環境のこととか、観光のことも考えてくれていて、本当に高校生としてのふるさとへの思い、いっぱいあるんだなということを感じることができました。

それで、何よりも、皆さんに願うのは、これはお父さん、お母さんたちも同じだと思うけど、健康ですくすくというのかな、健やかに、今のようにそれぞれが1年生から3年生までそれぞれがとってもいい笑顔で育っていつてくれることを願っています。

また、皆さんの笑顔が素晴らしいので紹介しますが、県でほほえみプロデュースという事業をやっていて、今、2万人ぐらいほほえみプロデュースのメンバーがいるんだけど、高校生も参加できます。ほほえみプロデュースのプロデューサー育成事業というのをやっていていますので、ぜひ来て勉強してください。

ということで、笑顔を大事に、これからもしっかりと自分の人生、まっすぐ、真剣に歩いてってください。今日は本当にありがとうございました。